

★数井先生への質問内容と先生からの回答

2024.2.3 開催分

【質問内容】

質問です：

榊原白鳳病院の笠間です。貴重なお話を有り難うございました。

2023年の「第42回日本認知症学会学術集会—シンポジウム30」において、吉山顕次先生が『ちえのわ net』での幻視に対する奏効確率に関して紹介されました。

奏効確率：

「幻で危害を加えないと説明する」：100%

「話を聞く・話を合わせる」：80%

「訴えを否定する」：33.3% という結果でした。

レビー小体型認知症の人にとっては、幻視は本物にしか見えません。消えたときに初めて幻視だったと気づくことができます。

本物にしか見えない人に対して、「幻で危害は加えないですよ」と説明することは、見えていることの否定が前提となっており、本人の混乱に繋がる場合もあるように私には感じられるのですが如何でしょうか？

【回答】

私の印象は異なります。

DLBの方は幻視に違和感を感じておられる人の方が多いように思います。

こんな物が見えて、他の人は見えていないというのに・・・、私がおかしいのだろうか・・・と思っておられる人が多い印象を持っております。私が大学病院におり、軽症の人が多いためからかもしれません。

従って、私の発表内のお声かけがけっこう有効なのです。

ご質問のような方も少ないですがおられます。

そのような方には上記のようなお声かけはしていません。

高知大学医学部神経精神科学講座

数井 裕光